

炭竈 ふく代 議員

公明党

B型肝炎ワクチンの定期接種制度について本市のタイムスケジュールは？

問

知の方法と現時点における

現在、B型肝炎ウイルスの感染者のほとんどが持続的に感染をしているキャリアと呼ばれる状態であり、年間約50万人から70万人がB型肝炎に起因する疾病、肝硬変や肝がんなどで死亡していると推定される。その多くは3歳までに感染したためとも言われている。

近年、問題視されているのは、父子感染などの家庭内感染や保育園などの子ども同士による水平感染であり、より一層予防接種の重要性が増している。

(1) 10月からB型肝炎ワクチンの定期接種化が承認されたが、この定期接種制度について、本市のタイムスケジュールは。

(2) 定期接種化に対する周

知の方法と現時点における
 予防接種率は。
 (3) 必要となる接種回数は3回で、生後1歳に至るまでに完了することが求められている。

定期接種開始時の対象者を28年4月から9月生まれの子もさかのぼって救えないか。

(4) 定期接種化の1年間、3回の接種内で欠けてしまった時の対応は。

(5) 定期接種対象外の1歳以上の子への公費負担について、市の考えは。

(6) 定期接種開始からの3年間だけでも予算化し、3歳児までの任意助成事業の実施をしようか。

10月からの接種開始を予定している

健康推進課長

(1) 対象年齢は生後1歳に至るまでの間にある方で、今年度の接種対象者は28年4月以降に出生した方となる。

10月から接種開始を予定している。

(2) 4月以降に出生された赤ちゃん訪問時に予防接種の説明の中でB型肝炎ワクチンが10月から定期接種になるということを説明している。また、市のホームページでも紹介している。

予防接種率は、任意接種のため把握できない。

(3) 厚生労働省の要領・要綱、Q&Aが新しい定期接種になった場合は示されるが、まだ示されていないので、それらが出てから考えていきたい。

(4) 生後2カ月に達したときから生後8カ月に達するまでの期間が標準的な接種期間となっている。

赤ちゃん訪問時や4カ月健診時に規定の期間内に接種していただくよう案内していきたい。

健康推進課長

(5) 他の予防接種と同様、免疫機能の異常など長期にわたり療養を必要とする疾患などにより接種対象年齢の間に接種を受けられなかった人が接種できるようになった場合は、定期接種として取り扱うが、それ以外は定期接種の対象でなくなるので公費負担は考えていない。

(6) 任意接種の助成は考えていない。極力1年以内に3回接種していただくよう周知していきたい。



▶B型肝炎は、10月から定期予防接種を導入予定

胃がんの早期撲滅を目指し、中学生へのピロリ菌検査導入を！

問

胃がんの原因となるピロリ菌は、正式名称をヘリコバクター・ピロリといい、

胃の中でも生きられる特殊な細菌で、幼少期に感染することがほとんどである。早期発見・早期予防の重要性から、中学生へのピロリ菌検査を行うところがふえつつあるが、本市でも中学生へのピロリ菌検査を導入し、早期予防を考えるとかがどうか。

除菌による健康被害など注視する点もあり、現時点では考えていない

健康推進課長

中学生へのピロリ菌検査を実施する市町村は、若いうちに除菌することにより、がん予防効果を高めるために行っている。

しかし、県及び海部医療圏ではまだ取り入れていないと思われる。中学生の除菌は、健康被害など注視する点もあると考えており、現時点では中学生へのピロリ菌検査は考えていない。

今後とも国及び近隣市町村の動向を注視していきたい。